

総務経済常任委員会活動レポート

開催日：令和8年1月15日(木)

開催場所：1・2号委員会室

中標津消防団様との懇談会

懇談会には、消防団団長、副団長2名のほか、根室北部消防事務組合消防本部1名、中標津消防署3名にご出席いただきました。

委員会からの事前質問事項に対する回答・説明を受け、中標津消防団および中標津消防署の活動状況、課題等について懇談を行いました。

【主な質疑】

委員：前回の懇談では広報紙等による新規団員公募の反応がなく、団員の声掛けによるものとなっていました。状況の変化は？

団長：企業の協力により、従業員が団員となるケースが増えています。

委員：定住外国人の入団は？

管理課長：日本国籍を基本としていますが、なり手不足の観点から今後の検討課題としています。

委員：団員定数の考え方は？

管理課長：消防団員の定数は条例で定めており、地域の実情に応じて設定されていますが、近年のなり手不足を踏まえ、分団定数の在り方の検討が必要とされています。

委員：実際の現場への出勤率は？

消防団係長：火災の規模や地域により差はありますが、令和元年以降の火災発生時における消防団員の分団別平均出勤率は、団本部63.9%、第1分団50.3%、第2分団39.3%、第3分団67.5%となり、初期対応に必要な人員は各分団とも概ね確保されています。

委員：女性消防団の配属先は？

団長：消防団本部付となっています。

委員：女性消防団の活動は？

団長：現在10名在籍し、紙芝居等を活用した防災の啓発活動を主に担当しています。

委員：婦人防火クラブの人数は？

副署長：自主防災組織として、令和7年4月1日現在、中標津市街全域の東中婦人防火クラブ37名、武佐婦人防火クラブ16名、計根別婦人防火クラブ10名のほか、町立中標津保育園幼年消防クラブ18名となっています。

主な活動は、春および秋の全道火災予防運動初日行事啓発活動、総合訓練、



懇談の様子

出初式、防災講習会へ参加しています。

委員：じゃがいも伯爵まつりでの消防団員公募の広報活動はいつから？

団長：3年前から行っています。

委員：消防団協力事業所制度とは？ また広報や企業への働きかけは？

管理課長：3名以上の団員を輩出している事業所に消防団協力事業所と表示できる制度で、現在釧根開発様、両農協様となっています。制度を広報することはしていませんが、一定の団員増員の効果はあると考えています。

委員：消防署と消防団の所有車両の更新・整備は？

副署長：年次計画により更新し、以前は20年更新としていましたが、現在は車両性能の向上を踏まえ30年を目安に更新要望を提出しています。

整備は、機装部分は専門メーカー、車両は整備会社により定期点検整備を行っています。

委員：消防団と消防署の話し合いの場は？

団長：各分団長や消防署の管理職、消防団係を含めた幹部会議を年3回実施しています。分団の要望は、幹部会議で出た要望を要望書にまとめ、消防団から消防署へ、消防署から町へ提出しています。

委員：風水害等の出動基準は？

署長：標津川東5条観測所の水位が氾濫危険水位の25mに達したとき又は警戒レベル4以上が発令され、指揮本部長等と消防団長が必要と認めたとき及び強風のため風害が予想される場合は招集の基準となります。去年は空き家の屋根が飛びそうになり、隣の方からバタバタして飛びそうだという通報が数多くありましたが、役場とも協力しながら消防署のほうで応急処置の活動をしました。

委員：イベント等で消防団と警察署が連携して防災の取り組みをすることはできますか？

団長：警察署からの提案があれば検討します。

管理課長：以前東武にて、警察署と消防署が協力して防犯訓練を実施したことはあります。また今年から、職員の採用に関して警察署、消防本部、自衛隊、海上保安庁の四つのグループで、東武でアピールを行ったり、各学校を回ったりという協力はしています。

委員：計根別にある第3分団施設の更新の要望は？

署長：モルタルが剥がれるなど、細かいところが多々あるので、来年度耐震検査計画をしている段階です。

委員：計根別の振興計画策定と連動した要望が必要だと思います。



懇談の様子